

とっとり産業フェスティバル2009 ポスター発表要旨

テーマ
持続可能な地方都市における中心市街地のスケルトン・タイプの開発研究(2期目)
発表者
木俣 信行 鳥取環境大学環境マネジメント学科 教授
概要 1年目の研究で得られた、コンパクトシティのあり方を追求する中で、具体的な地域に適用してこの課題を検討することが必須と考えられた。そこで鳥取市の智頭街道地区に研究拠点「まんぐるじゅ」を設けて調査を続けている。その中で、現居住者が求める方向と都市全体から考えられる地域のありべき姿との間の乖離が非常に大きいことが再確認された。そのブレークスルーの方法が本研究の主要課題である。

<p>【イントロ・背景】</p> <p>わが国では地球温暖化と少子高齢社会の到来とともに、コンパクトシティが政策目標であるが、実現には高度土地利用に対する関係者の理解と合意形成が不可欠であり、最も大きな克服課題であり、その方法を確立することが求められている。</p> <p>【方法】</p> <p>A. スケルトン形成のための技術の対応実態調査：関連研究開発成果報告調査 B. 景観への住民の意向調査：評価グリッド法によるステークホルダ調査 C. まちのあるべき姿：関連資料収集および基礎的ヒアリング実施 D. 住民の理解を得るためのまちの姿イメージの表現方法試行</p> <p>【結果】</p> <p>1. 構造、材料、空間計画技術的には、数百年の耐用年数を目指す場合のスケルトンの具体的な方向が明確になりつつある。最終年度には具体的な要件を明示できるようになるものと考えている。 2. スケルトンの中で景観へのステークホルダに意向については、評価グリッド法による約 30 名強の調査結果が得られている。 3. スケルトンのあり方を考える上で基となる、ステークホルダが求めるまちの暮らし、生活の方向についての意見・考え方については、本年度中に 20 サンプルを得ている。スケルトン形成のプロセスに関するステークホルダの合意形成については、プロトタイプが得られた。 4. イメージを伝えるために、まちの全体模型 2、イメージパネル 8 枚作成した。</p> <p>【来場者へのメッセージ】コンパクトシティとスケルトンは技術問題ですが、その具体化は社会学的課題です。皆様の忌憚のないご意見をお願いします。</p> <p>連絡先： 鳥取環境大学環境マネジメント学科 教授 木俣 信行 鳥取市若葉台北 1 - 1 - 1 TEL. 0857 - 38 - 6778 E-meil:</p>			
分野	環境	プレゼンタイム	無